

## (5) 東海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す  
(  は上方に変更、  は下方に変更)

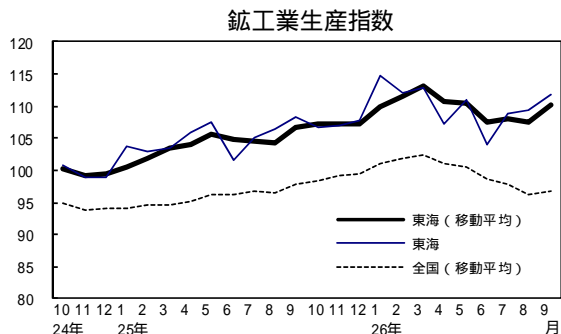
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年8月)	今回(平成26年11月)	
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる	
雇用情勢	着実に改善	改善	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる

7～9月期には、輸送機械は、北米向け等の海外向けは堅調だったものの、国内向けが減少したため、乗用車を中心に減少した。はん用・生産用・業務用機械は、国内向け補助金や設備投資促進税制などの政策効果等により、金属工作機械が堅調に推移したことから増加した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けが好調に推移したことから増加した。化学は医薬品が増加したことにより増加した。プラスチック製品は、工業用プラスチック製品が減少したことにより減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

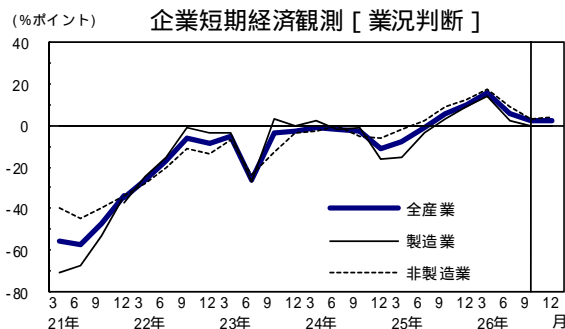
	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	36.5	5.1	2.6	0.7	2.8	5.0
はん用・生産用・業務用機械	9.9	3.9	3.3	3.0	1.7	4.7
電子部品・デバイス	9.5	3.8	12.2	4.7	11.4	2.8
化学	6.9	13.2	5.0	1.8	0.3	7.8
プラスチック製品	5.9	8.3	3.8	1.7	4.5	6.9
鉱工業	100.0	5.1	2.5	4.6	0.6	2.1

(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

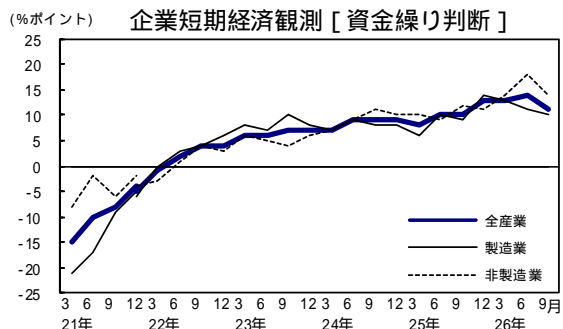
- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。  
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

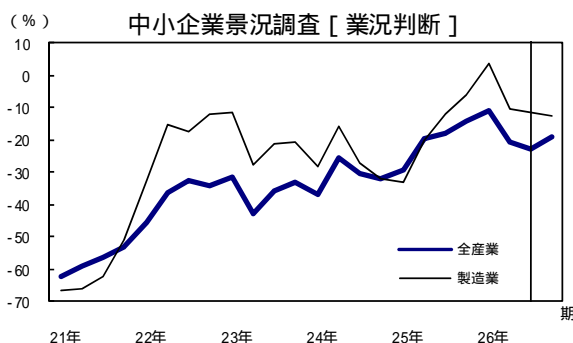
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。

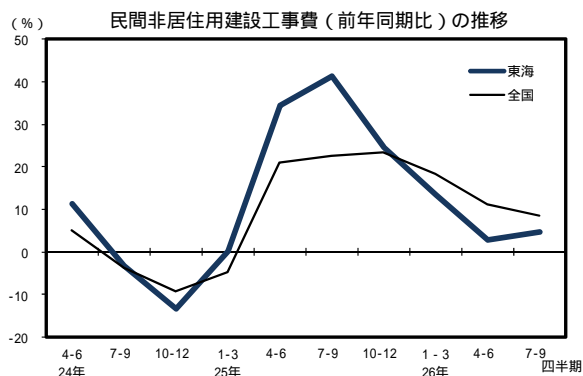


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「中小企業の業績は、電力料金の改定、円安による原材料価格の高騰や大企業への販売価格の値上げが認められない等の理由により悪化している(公認会計士)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度計画
全産業	4.6	13.4
製造業	6.2	14.1
非製造業	14.0	12.7

(備考) 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.3%減、8月は同0.2%増、9月は同1.4%増となった。

大型小売店販売額

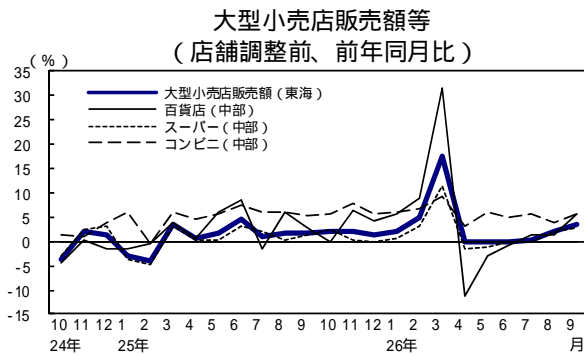
百貨店は、7月は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動がみられたものの、高額商品の一部に動きがみられたことから、前年を上回った。8月は、台風や天候不順の影響がみられたものの、高額商品の一部に動きがみられたことや気温の低下によって秋物衣料品に動きがみられたことから、前年を上回った。9月は、気温の低下によって秋物衣料品に動きがみられたことや高額商品に動きがみられたことから、前年を上回った。

スーパーは、生鮮食品の相場高や販売促進の効果等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、42.3となり前月より5.4ポイント低下した。

「食品では高額なパンや肉類が売れるといった一面もあるが、全体としては販売量の動きが鈍い。乳製品を始め商品値上げの影響も悪い方向に作用していると感じる(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



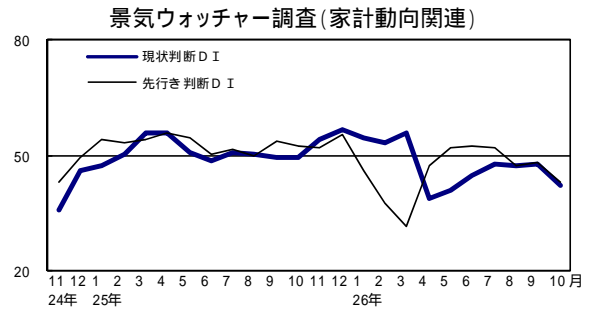
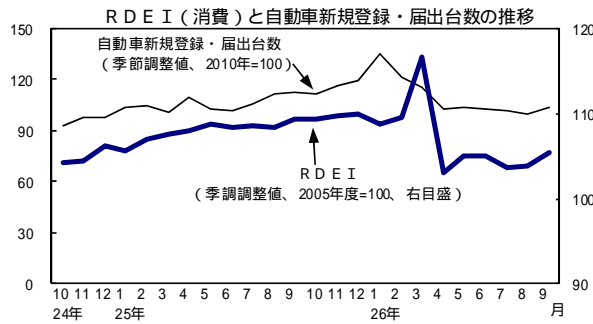
	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.1	1.3	0.2	1.4
大型小売店(*2)	1.8	0.2	1.9	3.6
百貨店(*2)	2.7	1.2	1.4	5.7
スーパー(*2)	1.6	0.2	2.1	2.9
コンビニ(*2)	5.1	5.7	3.9	5.8
乗用車(*3)	7.1	3.7	11.4	7.1
(季節調整値)(*3)	1.2	1.3	1.5	3.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー、コンビニは、中部

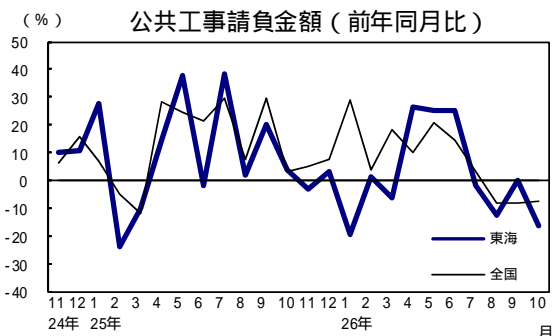
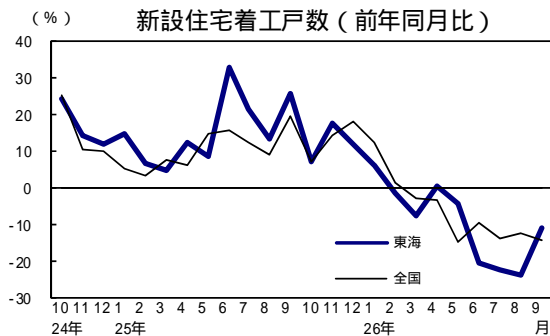
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を上回っている。

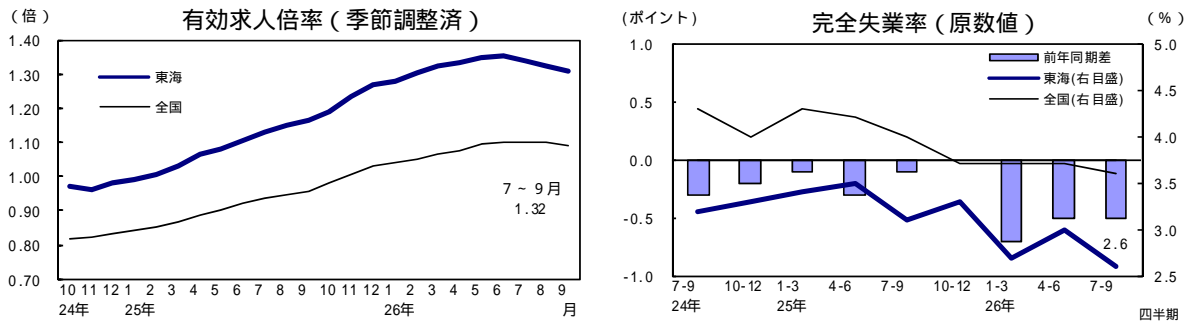


### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

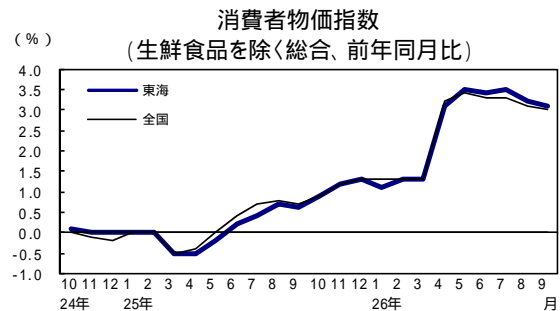
「求人広告に対する応募がほとんどなくなってきている。新聞広告のみならず、求人チラシや求人誌でも効果が現れていない様子である。今月に入って企業の求人活動が著しく減少しているように感じられる(新聞社[求人広告])」などの回答がみられた。

#### (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

#### (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	344	316	309	270	102
(前年比)	11.0	6.0	16.3	17.2	25.5
負債総額	633	456	420	481	115
(前年比)	17.0	41.6	36.9	22.0	38.0



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・販売量が伸び悩んでおり、思ったほどには売上を確保していない。景気が悪化しているような様子ではないが、踊り場で足踏みをしているような状況である(電気機械器具製造業)

<先行き>

・物流業界では軽油など燃料価格が下がりコスト面ではややプラス方向になるが、一方で、運転手不足が続き外注コストや人件費が高騰している。一般消費雑貨の荷動きが低調で、上向き気配が感じられない(輸送業)

